



## 泊稼働を急ぐ泊原発3号機

泊原発の敷地の丘に、生コンのプラントが準備されています。2022年、札幌地裁は、現在の防潮堤は地震による液状化現象で津波に耐えられないとして、泊原発1～3号機の運転差し止めを命ずる判決を言い渡しました。その後北電は盛り土防潮堤1250mを撤去し、新たに1000mの防潮堤を計画しています。

原子力規制委員会の審査は、現在の専用港での5千トン級の核燃料等輸送船は津波により漂流し防潮堤などを破壊する可能性があるとして指摘しています。既存の港は利用できません。北電は原発から1km以内に新港を500億円で建設するか、4km離れた岩内港を利用するとしています。そうすると規制委員会で輸送船の安全性を審査する必要がなくなります。再稼働するのに必要な核燃料は構内に保管されており、運転途中での核燃料もあるとのことで、北電は当面新港等の対策がなくとも再稼働するとしています。

### 佐藤英行 北海道岩内町議会議員

安全対策費が5150億円に達しており、これに新港建設費500億円、防潮堤の工事費も膨らみます。テロ防止施設の建設もまだです。北電は本年12月に全審査項目の説明を終了し、2026年12月に再稼働を予定しています。

現在ラピダス(株)は、千歳市に次世代半導体工場を建設中です。この24時間365日フル稼働の次世代半導体工場は大量の電力が必要です。北海道で消費される電力の1～2割、60万キロワットになると推計されています。データセンターも大量の電力を要します。北電はラピダス半導体工場の操業に間に合わせようと泊原発3号機の再稼働を急いでいます。



11月9日、札幌地裁で泊原発の防潮堤が指摘された



## 13年間止まっていた島根原発2号機の稼働は危険だ!

### さよなら島根原発ネットワーク 芦原康江

中国電力は島根原発2号機を12月7日に再稼働すると発表しました。島根2号機は福島原発と同型のBWR原発です。福島原発事故後、事故の拡大を防ぐための新しい規制基準が策定され、島根原発2号機にも対応されました。しかし、それは福島原発事故の原因分析も充分に行うことができないままの対策です。将来起き得る地震などの自然災害規模を的確に想定できなければ、その対策は功を奏しないのは必然ではないでしょうか。

さらには、能登半島地震で起きた複数の活断層連動は、電力会社が行う連動評価に対する不信感を増大させています。また、大規模地震による避難路となる道路の損壊は、住民の避難が一層困難となることを示しました。

このことから私達住民は、島根県と30km圏内各自治体に対して、今一度立ち止まり再稼働

働同意を撤回するよう求め続けてきました。

各自治体から返ってくる答えは、「現時点で対応が必要な新しい知見はない」「自然災害発生時に安全な避難所で屋内退避してください」と、内閣府や原子力規制委員会の説明をオウム返しに返してくるだけで、住民の不安に真正面から答えようとはしません。

12月7日の再稼働を目の前にして、私達はいくまで再稼働には反対だという意思を強く表明したいと思います。

そして、稼働すればするほどに高まるリスクを訴え、原発のない町を作っていくことを改めて表明したいと願っています。



中国電力申し入れ

# 原発やめようニュース

## 反原発自治体議員・市民連盟

NO.51 2024年12月

## 電力会社は発電しない原電に資金供与をしないよう求めます

原子力規制委員会は8月、原発直下に活断層があることは否定できないとして、敦賀原発2号機を不許可にしました。これを機に、各電力会社が行ってきた原電への資金提供の停止を求め、全国で取り組むことを決めました。

### 発電しない原電に資金供与する理由はない

原電が運営する敦賀原発には、中部電力、関西電力、北陸電力が費用を負担し、また東海第二再稼働には東京電力と東北電力が資金提供しています。各社は原電に対する費用を「自社電源同様」とし、電気料金原価に含め、電気利用者に電気料として負担させています。これが許されるでしょうか。東海第二原発は、防潮堤の欠陥工事で再稼働は2年3カ月遅れるとされていますが、そのめどは立ちません。

### 中部電力へ8月脱原発株主らが要請

既に8月26日に、「脱原発！中電株主といっしょにやろう会」「北陸電力と共に脱原発をすすめる株主の会」「脱原発へ！関電株主行動の会」が共同で、中部電力、関西電力、北陸電力社長あてに、「敦賀2号を廃炉にするよう日本原電に求めてください」という要望書を提出しました。

### いのちのネットワークが北陸電力に要請

10月31日には、いのちのネットワーク事務局代表の藤岡彰弘さんが、北陸電力に要請書を提出しました。その文中で「北陸電力が支払っているのは100億円以上になる。(中略)なぜ、大金を出し続ける必要があるのか。

### 反原発自治体議員・市民連盟

共同代表 佐藤英行(岩内町議会議員)  
福土敬子(元東京都議会議員)  
武笠紀子(元松戸市議会議員)  
野口英一郎(鹿児島市議会議員)

〒168-0072  
東京都杉並区高井戸東3-36-14-30

1

TEL/FAX 03-3317-0356

そのお金をもう必要のない志賀原発の廃炉費用にこそあてるべきだ。」と訴えています。

### 10月6日東京電力に公開質問状を提出

10月6日、再稼働阻止ネットは、東電に対し「東海第二原発の安全な防潮堤工事が不可能な原電に今後資金提供をしないよう求める」公開質問状を提出。その中で①2012年度以降提供した資金総額、②発電しない原電に資金供与する理由、③原電への財政支援を将来受電される電気料金の前払いとした理由を質し、東電は11月中に回答すると約束しました。

### 老朽原発うかすな実行委関電に11月下旬要請

関西電力に対しては、「老朽原発を動かすな！実行委員会」が11月下旬に要請書を提出します。関西電力は、日本原電に対してこれ以上資金供与をせず、速やかに敦賀2号を廃炉にするよう求め、これまでの資金供与部分は電気料金の値下げにまわすよう要望します。

### 東北電力へは女川原発再稼働後に要請

東北電力には、地元市民団体が女川原発2号機の再稼働に反対する取り組みが一段落したのちに、要請行動を予定しています。



11月6日東電本社前。阻止ネットの公開質問状を提出。

**12.8「とめよう！原発依存社会への暴走 関電包囲大集会」に結集しよう！！**  
老朽原発うごかすな！実行委員会 木戸恵子

●地震大国に原発はいりません

本年元日に発生した能登半島地震は、原発は地震に脆く、地震で原発過酷事故が起これば、道路は寸断され、避難も屋内退避も困難を極めることを再認識させました。震源に囲まれて原発を密集させている日本は異常です。

●使用済み核燃料の行き場はありません

今、原発で発生した使用済み核燃料を保管する燃料プールが満杯になろうとしています。満杯になれば、原発を動かせなくなるため、電力会社は、使用済み核燃料を乾式貯蔵に移しプールに空きを作ることに躍起です。関電は、使用済み核燃料の再処理工場（青森県）への搬出によって、福井県の老朽原発運転容認の継続をはかっていました。しかし、再処理工場は27回目の完成延期を発表し行き場がありません。

●「原発依存社会」へ暴走する自公政権

自公政権は、40年を超える老朽原発の稼働を進め、60年超え運転も拡大し、原発の建て替えや新設まで画策し「原発依存社会」へ暴

走しています。今回の衆院選で大敗した自公政権は、電力総連の支持を受けて原発推進の国民民主にすり寄っています。維新も立民も「原発容認」に変節するおそれがあります。

●目に見え耳に聞こえる市民の行動の高揚を！

混沌化、流動化しながら反動に進む流れを逆流させ、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を展望するために、いま最も求められているのは、「目に見え、耳に聞こえる市民の行動」の高揚です。

老朽原発うごかすな！実行委員会のアメーバデモ(反原発チラシの各戸配布)は、若狭住民の反応を明らかに好転させています。12.8「止めよう！原発依存社会への暴走 関電包囲大集会」に全国からの参加を呼びかけます。

**12.8(日)とめよう！原発依存社会への暴走 関電包囲大集会**  
○場所: 関電本店前  
○時間: 13時集会開始  
集会後大阪駅までデモ、16時解散

**報告 9.23「老朽原発うごかすな！高浜全国集会」は360名の盛況**

福井県の高浜町市民会館で「老朽原発うごかすな！高浜全国集会」が行われました。大阪や京都、滋賀、兵庫からはバスを仕立てての参加があり、地元の福井や、岐阜、愛知、東京からも集い360名の大盛況となりました。

集会は、福井県民会議の中嶋哲演さんの主催者あいさつに始まり、「志賀原発を廃炉に！訴訟」原告団長北野進さんが、前日の能登半島を襲った大雨被害のなかを駆けつけられ、心打たれるお話がありました。また「原発は地震に耐えられないとして原発を止めた」樋口英明元福井地裁裁判官の講演も、とてもわかりやすい内容だったとの感想が多く聞かれました。使用済み核燃料問題で青森の中道雅史さんと福井県民会議の石地優さんの報告、柏崎刈羽・島根からのビデオメッセージ、若

狭から舞鶴に至る地元の方々の報告はどれも日々の活動が伝わる中身でした。

集会の後、若狭高浜駅まで高浜町内をデモ行進。家から出てきて会釈する方や手を振って激励くださる方々があり、これまで「老朽原発うごかすな！実行委員会」の皆さんが「アメーバ行動」と称する町内ピラマキを継続してきたことの成果を強く感じました。



登壇した名古屋の市民団体

**使用済み核燃料の青森搬入を許すな**  
青森・核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会 事務局長・中道雅史

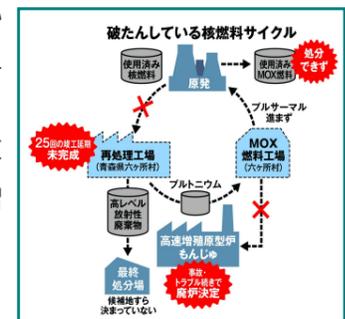
原子力規制委員会は11月6日、使用済み核燃料中間貯蔵施設（青森県むつ市）の事業開始について協議し「合格」としました。即日、事業主体であるリサイクル燃料貯蔵（RFS）に「確認証」を交付し、使用済み核燃料を原発敷地外で一時保管する国内初の中間貯蔵施設の操業が開始されました。貯蔵期限は50年間。

9月24日、東京電力柏崎刈羽原発から使用済み核燃料69体を入れたキャスク1基が搬出されました。9月26日早朝、弾劾の音が付近一帯に響き渡るなか、むつ市関根浜港に入港、接岸し、陸揚げが行われました。当初は短時間で終わるとされた使用前検査が10月25日までかかり11月6日を迎えました。

議会や県民説明会などで、「高レベル放射性廃棄物の最終処分場の不確実性」「再処理計画の不確実性」などの疑問について、明確な答えは一切出されていません。マスコミでさえ、「核燃料の行き場に不安」「見切り発車」と批判しています。

50年後の搬出先は「六ヶ所再処理工場を前提」としています。しかし、その再処理工場について8月29日、「27回目の完工延期」がアナウンスされました。「2年半の延期」とされても、これまでのトラブルなどをみると全く現実的ではありません。よしんば完工したとしても、高レベル放射性廃液の「ガラス固化」などの難関が控えています。着工から30年、アクティブ試験で汚染されてから10数年、もうボロボロの未完の工場が50年後に動いているはずがありません。

今後、国内全電力会社によるこの施設の共同利用の議論が本格化するのには必至です。そうならば、全国から使用済み核燃料がむつ市へ運ばれ、そのことは原発再稼働、原発の新增設に直接つながります。



**伊方3号機「定期点検中に装置不調」で原子炉一旦停止**  
伊方から原発をなくす会 名出真一

7月から定期点検に入っていた伊方原発3号機は、9月29日に再起動しました。しかしその後送電開始直前に、原子炉内の中性子の量を測定するための炉内核計装装置の不具合により、一旦再起動した原発を停止するという不様な事態に陥りました。

2ヶ月間なんの検査をしていたのでしょうか。原因は、今回の定期検査で「取り替えた炉内計装盤の検出回路に使用している高電圧発生基板とその接地回路の構成が、適切ではなかった」と、判ったとのことですが、あまりに杜撰なミスではないでしょうか。

伊方原発の後再稼働した被災原発である女川原発でも11月3日に、同じ中性子の計測器に関わるトラブルで再起動した原発を停止するという事態が起っています。BWRとPW

Rの違いはありますが、女川原発2号機も伊方原発3号機もどちらも30年になる老朽原発です。原発は巨大なプラントであり古くなったからといって全ての部品を交換することは不可能です。

規制委の「審査は安全を担保するものではない」との自ら認めた危険性からも分かるように、原発の運転は「安全」よりも経済性や国の思惑が優先されていることは最早明らかです。

ロシアウクライナ戦争、イスラエルによるイラク攻撃でも明らかなように核開発は脅威と挑発にしかありません。核と人間は決して共存できません。全ての原発を今すぐ廃炉に追い込みましょう！